

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	25	20	高津区防災まちづくり推進事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			670000		危機管理担当		水野	64353	

事業の概要											
事業の概要			「自助」、「共助」、「公助」の観点から、またネットワークの強化の観点から、地域防災力向上を図る施策を実施し、災害に強い高津区のまちづくりを推進する。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心まちづくり事業費			
		平成21年度		—							
地域の課題と現状			区民生活に係るニーズ調査(H28)では、多くの区民が大規模地震に関する不安を感じている一方で、家庭での備蓄や地域の防災訓練への参加状況など、意識と行動の間には差異があり、これを埋めるための効果的な取組が必要である。また、高津区の特性として土砂災害警戒区域や想定浸水区域が多いこと、大規模地震発生時の溝口駅周辺での帰宅困難者等の対策が必要であることを踏まえた対策が必要となっている。								
予決算 (単位:千円)	年度	財源内訳	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
			事業費	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
			国庫支出金	5609	4382						
	市債										
	その他特財										
	一般財源	5609	4382								

計画 (Plan)	
事業の目的	「自助・共助・公助、それぞれによる地域防災力の向上」と「区の特性に配慮し、官民のネットワークを生かした、オール高津区での災害対策の推進」を図る。
今年度の事業の取組内容	属性別に防災啓発を実施し、家庭での備えなど自助の取組を促進する。 避難所運営会議の活性化に向けた支援や高津区防災ネットワーク会議を実施し、共助の取組を促進する。 東日本台風において課題となった避難所運営に係る必要な資機材を配備する。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等			<ul style="list-style-type: none"> 小学生を対象に、マイ減災マップワークショップを2回実施した。 避難所運営会議の活性化を図る高津区防災ネットワーク会議(部会3回)を開催した。 避難所運営会議開催等にむけた支援を重視し、避難所運営訓練を増やしたため3回の開催となった。 避難所運営会議を9回、避難所運営訓練を5回開催(支援)した。 避難所運営に必要な炊き出し器具、車いす等を配備した。 区災対本部室で使用するベスト、テレビ等を購入した。 令和元年東日本台風による平瀬川下流域付近の浸水被害の対策として、当該地域に防災情報を周知する平瀬川氾濫警報装置を追加設置した。 帰宅困難者施設を拡充し、2,498人の受け入れを追加確保した。 						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1	活動指標	高津区防災ネットワーク会議の開催(個別部会を含む)	目標 4	実績 3	4			回
	2			目標					
	3			目標					
	4			目標					

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	東日本大震災や熊本地震などの大震災や、東日本台風等による豪雨災害などを受け、コロナ禍で実施が困難であった自助・共助・公助の強化に向けた取組を推進する必要がある。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) <input type="checkbox"/> 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	令和元年東日本台風による平瀬川下流域付近の浸水被害の対策として、当該地域に防災情報を周知する平瀬川氾濫警報装置を追加設置した。高津区ネットワーク会議に新たな部会を令和5年度に設置できるよう関係者との打合せを実施し、高津区全体での防災意識が醸成されるようにした。

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	昨今の自然災害の発生状況を受け、防災全体に対するニーズは高まっていると考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	自主防災組織や避難所運営会議の取組状況などから一定の成果があったと考えられる。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	行政・住民が防災の知識・スキルを向上させていくことにより、自主的な活動の強化が見込まれ、将来的な効率的・効果的な事業実施につながる可能性があると考えられる。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
社会全体として、自然災害に対する意識が向上してきた一方で、令和元年度の東日本台風を踏まえた課題から、新しい生活様式の中でのより効果的な啓発の実施や新たな担い手の育成等に取り組んでいく必要がある。		

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	25	35	「エコシティたかつ」推進事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			671650		まちづくり推進部企画課		堤	64121	

事業の概要											
事業の概要		「エコシティたかつ」推進方針に基づき、関係局や関係団体と連携して取り組みを推進し、区民の環境意識の醸成を図りつつ、持続可能な循環型都市「エコシティたかつ」の実現を目指す。 主な取組:「エコシティたかつ」推進会議及び「エコシティたかつ」推進フォーラム、たかつの自然の賑わいづくり事業、学校流域プロジェクト、たかつエコシティツアー									
実施期間		事業開始年度 平成20年度		事業終了年度 —		予算中事業		環境まちづくり事業費			
地域の課題と現状		高津区でも顕在化しつつある自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対して、地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に取り組む必要がある。特に、世界的な気候変動(地球温暖化)が進行し、異常気象や局地的豪雨などが区内でも発生し始めており、従来の地球温暖化緩和策に加えて、流域思考に基づく地球温暖化適応策と生物多様性保全の視点から取り組みを進める必要がある。									
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度			
		予算額		決算額		予算額		決算額			
		事業費		5060		2649		5,904			
		財源内訳		国庫支出金							
		市債									
		その他特財		0		0					
		一般財源		5060		2649		5,904			

計画 (Plan)	
事業の目的	環境を大切にすることを育み、生命の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を地域から推進するとともに、気候変動による災害に適応するため、流域思考に基づく「水災害適応型都市」づくりを推進する。
今年度の事業の取組内容	「エコシティたかつ」推進会議を開催するとともに、「エコシティたかつ」推進フォーラム、エコシティツアーを実施する。またに緑ヶ丘霊園内のモデル地区で実践的な取組を展開するとともに児童向けのイベントを実施するとともに、区内の市立小学校などに環境学習支援を実施する。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	「エコシティたかつ」推進会議を1回開催した。 エコシティツアーについては、区役所内の施設を案内するエコシティホールツアーを行った。 たかつの自然の賑わいづくり事業については、水と緑の探検隊で下作延小学校生徒を対象に、森づくり体験及び保全していた希少植物の緑ヶ丘霊園への返還を行った。また、新規の取組として、緑ヶ丘霊園内に自生する希少植物や在来植物の保全及び適応策のため、霊園内の湧水地付近で区民協働での整備を進め、流域治水ガーデンを整備した。 学校流域プロジェクトについては、区内市立小学校等で環境学習支援を行うとともに、環境学習支援を目的とした動画コンテンツとして、ピオトープの活用や管理の動画制作を行った。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1 活動指標	エコシティたかつ推進会議の開催	目標	1	1			回
			実績	1				
	2 活動指標	イベント等における普及啓発の推進	目標	2	5			回
			実績	2				
3 活動指標	たかつの自然の賑わいづくり事業の開催	目標	1	1			回	
		実績	1					
4 活動指標		目標					回	
		実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	国及び市でも適応策に関する計画・方針が策定されており(国:気候変動の影響への適応計画(H27)、国:気候変動適応法(H30)、市:川崎市地球温暖化対策推進基本計画(R4))、適応策に関する関心・機運が高くなってきている。		
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	世界的な気候変動が進行し、異常気象や局地的豪雨などが区内でも発生し始めており、従来の地球温暖化緩和策に加えて、流域思考に基づく地球温暖化適応策と生物多様性保全の視点から取り組みを進める必要がある。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	事業の成果を維持しながら、さらなる新規取組として流域治水ガーデンの整備を進めている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	学校流域プロジェクトにおける学習支援については、R3年度作成したピオトープ管理支援動画を活用する方向に実施方法を見直し、業務負担を軽減した。その他事業においても、現状に合わせ適宜改善していくことが望ましい。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	環境適応策に主眼を置いたイベント内容を検討する一方で、職員の負担増とならないように効率性を重視し、効果的な事業実施を図る。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	25	05	高津区放置自転車対策事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			676100		高津区役所道路公園センター 管理課		山本 行範	74541	

事業の概要									
事業の概要		自転車等放置禁止区域における放置自転車等の計画的な撤去作業と放置自転車等に関する啓発活動を継続して行う。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		安全・安心まちづくり事業費			
		平成22年度	—						
地域の課題と現状		高津区内主要鉄道駅周辺は大型店舗等が密集し、交通の利便性が良いこと等から自転車等の利用が多いため、昼夜を問わず自転車等が放置されている。自転車は車両であるとの意識が低く放置は危険であるとの認識がないことが大きな課題である。現在、定期的な撤去作業を行っているが放置自転車等に対して、撤去が追い付かないのが現状である。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	556							
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源								

計画 (Plan)	
事業の目的	高津区内における主要鉄道駅の、自転車等放置禁止区域内の自転車等放置を防止し、安心・安全で住みやすいまちづくりを推進する。
今年度の事業の取組内容	高津区内における主要鉄道駅の自転車等放置禁止区域内の放置自転車等を減少し、安心・安全で住みやすいまちづくりを推進するため、自転車等放置禁止区域内の放置自転車等の撤去を計画的に実施するとともに、駐輪場施設への誘導と放置・駐輪に係る啓発を行う。 また、放置自転車等防止に向けた、キャンペーン等による啓発を行う。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		主に、溝ノ口駅前商店街振興組合と協力し、開催される行事について内容を協議・確認し、その運営について協力しました。運営を任せざるばかりではなく、お互いが協力することで、放置自転車を減少する活動にもつながりました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1	活動指標	啓発活動の一環として、啓発物品を配布	目標	4,000				個
				実績	4,000				
	2	活動指標	啓発活動の一環として、路上施設にポスター掲示	目標	5				枚
				実績	5				
3	活動指標	放置自転車クリーンキャンペーン	目標	1				回	
			実績	1					
4	活動指標	今年度放置自転車撤去台数	目標	1,400				台	
			実績	1,300					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		自転車等放置禁止区域に指定されている6駅(武蔵溝ノ口駅・梶が谷駅・高津駅・久地駅・津田山駅・二子新地駅)を中心に、放置自転車等の撤去活動を行うとともに、広報・啓発活動を行い、特に重点地区である溝ノ口駅北口周辺の放置を防止するため、関係機関(警察や商店街等)と協議を行い対応していく必要があります。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) H 29 年度 □ 今後実施(年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		撤去・啓発を主な業務としていますが、関係機関との協議や協力がなかったので、昨年度協議を行い、協力体制を促進しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	令和5年度より本庁一括委託となります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	令和5年度より本庁一括委託となります。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	令和5年度より本庁一括委託となります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	III 令和5年度より本庁一括委託となる。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	25	10	高津安全・安心まちづくり支援事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			670000		危機管理担当		横溝	64353	

事業の概要									
事業の概要		地域住民による自主防犯活動を支援し、活動の活性化を図るとともに、防犯キャンペーン等の啓発活動を通して区民の防犯意識の向上を図ることにより、地域の安全・安心の確保につなげる。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		安全・安心まちづくり事業費			
		平成17年度	—						
地域の課題と現状		区内の刑法犯認知件数は令和2年の987件から令和3年の800件へと若干減少傾向にある。地域の安全・安心を確保するためには、地域住民による「自分たちのまちは、自分たちでも守る」という意識付けが重要であり、地域団体や警察と連携の上、地域住民による自主防犯活動の支援や防犯キャンペーン等の啓発活動を通して、安全・安心に暮らせるまちづくりの実現を目指す。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費		635	529	629			
財源 内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	635	529	629					

計画 (Plan)	
事業の目的	自主防犯活動の支援や防犯キャンペーン等の実施により、地域の安全・安心の確保につなげていく。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 警察と連携し、防犯キャンペーン等を行い、区民の防犯意識の向上を図る。 高津防犯パトロール隊活動報告会を実施し、パトロールの重要性を確認する。 高津区防犯パトロール隊等の自主防犯活動団体に対し、パトロール用品の貸与等の活動支援及び情報共有の推進を図る。 防犯アプリ「みんなの防」の周知を図るとともに、警察と連携し同報系防災無線を利用した特殊詐欺防止に係る放送を行い、効果的な注意喚起を行う。 区内小学校へ入学する新1年生に防犯に係る啓発物を配布し、防犯に対する意識の醸成を図る。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> 防犯キャンペーンは防犯協会や高津警察署と連携し防犯啓発活動を7回実施した。また、交通安全キャンペーンでの啓発チラシ配布を3回行った。さらに、公共施設やワクチン会場、飲食店への啓発チラシの配架を行い、積極的な広報を行った。 防犯パトロール隊について、活動報告会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止としたが、次年度以降への継続的な取組とするため、各パトロール隊の活動実績の取りまとめを実施した。 防犯パトロール隊にベスト、帽子、のびろ旗等約200品の貸与を実施した。 防犯アプリ「みんなの防」の普及、オレオレ詐欺等の犯罪防止に向け、交通安全キャンペーン等でチラシの配布を行い、積極的に広報した。 防犯に対する意識向上のため、新入学児童とその保護者に啓発物の配布を実施した。 橋地区で年末の合同防犯パトロールを実施した。 警察からの依頼により還付金詐欺等の特殊詐欺に対する抑止および注意喚起のため、屋外同報無線による広報を実施した。 								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	防犯キャンペーンの開催数	目標	10	10			回
				実績	10				
	2	活動指標	防犯パトロール隊活動報告会	目標	1	1			回
				実績	0				
3	活動指標	新1年生への啓発物配布の実施学校数	目標	15	15			校	
			実績	15					
4	活動指標		目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	区内犯罪認知件数は減少傾向にあるが、犯罪は必ずどこかで起こっている。特に、詐欺行為は様々な新たな手口で実行されており、今後は高齢者のみならず若年層を含めた区民ひとりひとりが、防犯に対する意識を高めることが求められている。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 3年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	還付金詐欺等の特殊詐欺に対する抑止および注意喚起のため、屋外同報無線による広報を実施した。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	高津区の過去5年の犯罪認知件数の推移(平成30:1065件~令和4年:804件)から、犯罪は減少傾向にあることが分かるが、犯罪行為は新たな手口で実行され、被害者が後を立たない状況であるため、ニーズは高いと考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	高津区の過去5年の犯罪認知件数の推移から犯罪は減少傾向にあることが分かり、犯罪させない、しにくいまちづくりのため、区民の防犯に対する意識向上を目的とした啓発活動は一定の成果があり、有効であると考えられる。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	現状、警察等の関係機関との連携、役割分担はできており、結果として一定の成果が出ていることから現状、見直しの可能性はない。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> 警察と連携し効果的な啓発活動を実施していく。 犯罪情報を速やかに伝達できるよう、防犯アプリ「みんなの防」の普及を図る。 防犯意識向上に向けた広報の強化を実施する。また、巧妙化している特殊詐欺に対し、効果的な注意喚起を行う。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	25	15	交通安全の普及啓発事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			670000		危機管理担当		横溝	64353	

事業の概要									
事業の概要		高津区民、地域団体、行政、警察署等が連携し、交通安全キャンペーンや交通安全教室等の啓発活動を通じて、交通安全への意識の向上を図り、交通事故防止につなげる。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	安全・安心まちづくり事業費				
		平成22年度	—						
地域の課題と現状		高津区内の交通事故件数は減少傾向にあるものの、二輪車事故や高齢者関連事故、最近では増加傾向にある自転車事故を中心に、依然として多くの交通事故が発生している。そのため、地域団体、交通関連事業者、行政、警察署等が連携し、継続的かつ効率的に啓発活動に取り組むことにより、高津区民の交通安全への意識の向上を図る必要がある。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
財源内訳	事業費	1,298	998	1,691					
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	1,298	998	1,691					

計画 (Plan)	
事業の目的	区民の交通安全意識の向上を図り、交通事故防止につなげていく。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回程度「早朝街頭指導」「まちかど交通安全アピール活動」を実施するほか、年4回の交通安全運動期間に「交通安全キャンペーン」を実施し、歩行者や通行車両に交通安全を訴え、交通事故防止を広く呼び掛ける。 高津区内の各小学校入学式において、各交通団体と連携して、出席する親子に啓発を行い交通安全の意識を高める。 高津区内の中学校等で、スクエアドストレイト方式の交通安全教室等を行い、特に自転車の交通安全意識を高める。 警察等と連携し、小学校、保育園、町内会等で交通安全教室を実施し、歩行者や自転車の交通安全ルール順守と交通マナーの向上を図る。また、30代、40代の保護者向けに、自転車を中心とした交通安全の啓発を行う。 警察等と連携して、企業等で働く方や町内会(特に通勤で自転車を利用している方)への交通安全啓発を行う。 すべての事業において、新型コロナウイルス感染症の感染防止を考慮し、手法を検討しながら実施していく。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成	4. 目標を下回った					
			2. 目標を上回って達成	5. 目標を大きく下回った					
			3. ほぼ目標どおり						
取組内容の実績等	<p>「まちかど交通安全アピール活動」は、雨天の影響により7回中4回中止となり、12月2月3月の計3回の実施となったが、全日程で広報車による巡回広報を行った。また、4月、9月、12月の交通安全運動期間に港口駅キヨリデッキにおいて交通安全キャンペーンを実施した。7月は区役所会議室にて夏の交通安全啓発活動に向けて陣式を実施した。</p> <p>・新入学児童への啓発活動として、高津区交通安全対策協議会の構成団体との協力・連携のもと児童に啓発物・チラシを配布し、交通安全の呼びかけを行った。また、各小学校の通学路での見守り活動を実施した。</p> <p>・スクエアドストレイトの交通安全教室については、高津高等学校、東高津中学校、東橋中学校の3校で実施した。</p> <p>・PTAと連携した自転車交通安全講習会を4月と9月に開催し、児童とその保護者に自転車の交通安全ルールとマナーについて講習を実施し、合計約180人が参加した。また、9月には高齢者向け交通安全教室を実施し、約30人が参加した。</p> <p>・YouTubeを活用した交通安全動画の配信、小学校、保育園への交通安全啓発のDVDの貸出や啓発チラシの配布、広報車による地域巡回等を実施した。</p>								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	交通安全教室開催数(幼稚園・保育園)	目標	38	43			回
				実績	38				
	2	活動指標	交通安全教室開催数(小学校)	目標	31	31			回
				実績	31				
3	活動指標	交通安全教室開催数(中学校・高等学校)	目標	3	2			回	
			実績	3					
4	活動指標	交通安全教室開催数(企業・町会・その他)	目標	5	5			回	
			実績	3					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	高津区は近年交通事故の発生件数は減少傾向にあるものの、直近10年の内9回、神奈川県から「自転車交通事故多発地域」に指定されている。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 3 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施 (年度から)		
	具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	コロナ禍で啓発活動等が制約を受ける中、自転車の交通安全を呼びかける「自転車ルールブック」を作成し、活用を行うとともに、ホームページにも掲載した。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない	a
	評価の理由	b. 薄れている	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている	a
	評価の理由	b. 上がっていない	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない	a
	評価の理由	b. 可能性はある	
	現在、警察等の関係機関との役割分担ができており、結果として一定の成果が出ていることから、現状見直しの可能性はない。		

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I ・交通事故ゼロを目指す年4回の交通安全キャンペーンでは、交通安全の意識高揚を図るイベントとなるように工夫し、実施団体の負担軽減を考慮しながら、引き続き実施していく。 ・自転車事故多発地域を中心に広報活動を実施する。イベント等の実施内容を工夫し自転車の交通安全ルールの周知徹底を図る。 ・中学生、高校生等を対象としたスクエアドストレイトを実施し、自転車を中心とした交通安全意識向上を図る。 ・交通安全教室が年々増加傾向にあるが、他の機関と連携しながら、実施体制を整え、可能な限り対応する。 ・上記全ての活動において、効果的かつ訴求効果の向上を目指し、創意工夫して交通安全運動を継続させていく。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	25	30	ペットの飼い主等に対する防災啓発事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675300		高津区役所衛生課		鳥羽山	64564	

事業の概要									
事業の概要		ペットの飼い主に対して、地震、風水害等災害時にペットを含む家族の生命を守るためには自助が大切であることや日頃からの準備や備えの必要性及び具体的な対応策を周知する。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		安全・安心まちづくり事業費			
		令和2年度	—						
地域の課題と現状		避難所におけるペットの同行避難では、飼い主の事前の準備と自助が必要となります。令和元年台風19号の際には、避難所にケージを用意しないままペットと同行避難した飼い主がいる等、飼い主に対する同行避難のルールの周知等は不可欠である。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	124	95						
財源 内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	124	95						

計画 (Plan)	
事業の目的	ペットの飼い主に対して自助の大切さの認識を高めるため、日頃からの準備や備えの必要性を啓発することで、具体的な対応策を周知する。
今年度の事業の取組内容	外部講師による防災の備えについての講習会を高津区役所会議室で開催する。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、急遽書面で開催することとなった。参加予定者32名に対し、外部講師が書面開催用に作成した講習会の資料を送付した。また、講師に対して質問がある場合には電話やメールで受付を行った。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	講習会の実施(参加者)	目標	40			人
				実績	32			
	2			目標				
				実績				
3			目標					
			実績					
4			目標					
			実績					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		新型コロナウイルス感染症蔓延	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(5年度)	
<small>具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>		新型コロナウイルス感染症対策が確立した後、参加者を増やす等見直しをする。	
評価項目			評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	
	評価の理由	災害はいつ起こるかかわからないため、いざというときに適切な対応が取れるよう日ごろからの啓発活動が必要である。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	
	評価の理由	今年度は新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため書面開催となったが、ペットの飼い主に対して自助が大切であることや備えの必要性及び具体的な対応策を周知することができた。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	
	評価の理由	今後の状況を踏まえて検討する。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 新型コロナウイルス感染症対策を講じての講習会開催方法について、社会の動向を注視し、創意工夫をする必要がある。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	25	25	土のうステーション維持管理事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			676200		高津区役所道路公園センター 整備課			金子	74555

事業の概要										
事業の概要		大雨による道路冠水や床下浸水が発生する恐れが高い地域において、区民が土のうを迅速に入手出来るよう、道路・公園用地等公共用地に土のうステーションを15ヶ所設置した。また土のうステーションの維持管理には、継続的に土のうの補充および作成が必要であり、継続的な砂や袋の確保を行う。								
実施期間		事業開始年度 令和元年度		事業終了年度 —		予算中事業		安全・安心まちづくり事業費		
地域の課題と現状		土のうは、道路公園センターでは”取りに来ていただければ渡す”ことを原則としているため、自動車を所有していない方や高齢のために土のうの運搬ができない方にとっては、容易に入手ができない状況となっている。区内には全15ヶ所の土のうステーションを設置しており、各ステーションには定期的に土のうの補充が必要である。毎月30～50袋もの土のうの使用を確認しており、その補充に必要な砂や袋の継続的な確保が課題となっている。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費	775	728						
		国庫支出金 市債 その他特財 一般財源								
		775	728							

計画 (Plan)	
事業の目的	大雨による道路冠水や床下浸水が発生する恐れが高い地域において、区民が土のうを迅速に入手することができる体制を継続的に確保する。
今年度の事業の取組内容	高津区管内における全15ヶ所の土のうステーションの継続的な維持管理の確保。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		定期的に各土のうステーションの在庫を確認し、土のうが減っていれば随時補充を行った。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	土のう利用数(1箇所当たり)	目標	50				袋
				実績	47				
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
実績									

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		雨が降る前に区民が自ら土のうステーションの土のうを持っていき大雨に備えたり、雨が降り始めた後でも迅速に区民が土のうを入手できる手段として効果が出ている。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		使用後の区民が行う砂の処理方法が確立されていないことが課題である。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	ゲリラ豪雨や台風等の大雨時の対策として有効な手段である。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	区民に認知され継続的な利用が確認できている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	現在在庫の確認及び補充は直営で行っているため、即時対応が困難。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
ニーズがあることは土のうの使用数から確認できているため、今後はより気兼ねなく使えるように工夫を行うとともに、在庫管理についても、改善に向け検討を要する。		